

# MURATA GROUP NEWS 2016



## MURATA GROUP NEWS 2016 Vol.5 「ムラタグループ 50 周年記念」

ムラタグループ 50 周年記念対談

テーマ

「社は『信用と和』を原点に新しい挑戦を」

クアトロブームのテレビCMの歴史 .....1-2

50 周年の集大成とテレビCM制作陣のこだわり .....3-4

新イメージキャラクター「ダチョウ倶楽部」 .....5-6

新店「クアトロブーム富山田中町」 .....6-7

ゲスト 犬童一利プロフィール

いぬどう かずとし ●映画監督 神奈川県出身 中央大学卒

2016年3月公開の映画「つむぐもの」の映画監督をつとめる。クアトロブームCMのロボットシリーズの「サッカー篇」からプロデューサーとして参画。監督の山口ヒロキ氏と共同で製作会社を設立している

■主な作品

『フリーバイバイ』（短編映画 2010年 脚本/監督）

『SRS ♀ありきたりなふたり♀』（2012年 監督）脚本 守口悠介

第1回 氷見絆国際映画祭 優秀賞受賞 関西キア映画祭 2012 出品

第8回 香川レインボー映画祭 出品

『カミングアウト』（2014年 脚本/監督）

出演：高橋直人（俳優） 岡村優 夏緒 高山侑子 秋山浩介 (TooT Aki) 歌川たいじ  
一ノ瀬文香 美漸 - Bizen 他

『マリナが出てきちゃう』（短編映画 2014年 脚本/監督）

『早乙女4姉妹』（2015年 脚本/監督）

出演：清水絢子 寒川綾奈 福田愛美 椿明来 前田希美 イジリー岡田 他

『つむぐもの』（2015年 監督）脚本 守口悠介 出演：石倉三郎 キム・コッピ 他

Vol.5



クアトロブームスペシャルゲスト対談シリーズ

**村田 展隆**  
(株)ムラタ 代表取締役社長

**犬童 一利**  
映画「つむぐもの」監督

## ムラタグループ創業 50 周年記念対談

### テーマ 社は「信用と和」を原点に新たな挑戦を。

クアトロブームのブランディングに所縁のあるゲストをお招きして年に一度行われるゲスト対談。今年のゲストは、福井を舞台にした映画「つむぐもの」(2016 年春公開)の監督を務める犬童一利氏。同氏はクアトロブームのテレビ CM でメガホンを握る山口ヒロキ監督のビジネスパートナーで、同テレビ CM のシリーズにも初回から参加しています。「つむぐもの」の PR で福井を訪れた際に行われた村田展隆社長との対談をご紹介します。

## クアトロブームのテレビ CM の歴史

犬童●創業 50 周年とお聞きしましたが。

村田●祖父と父が自動車修理工場を始めてからちょうど 50 年が経ちました。今の工場も一部は 42 年前に建てた当時のままなので、感慨深いものがあります。そういえば、明和電機の土佐社長が CM の打ち合わせでこのムラタ本社へ来たときに、隣りにある自動車修理工場を見て最初のロボットの CM を思いついたらしいんです。土佐社長のご尊父も工場を経営されていたということなので、そこからアイデアが生まれたのかなと思います。最初の CM でレトロなイメージの工場が登場しますが、ここでロケが行われました。

犬童●クアトロブームのテレビ CM といえば山口ヒロキ監督ですね。僕もいっしょに映画の勉強させていただいて、5~6 年前から編集をいろいろ教わってるんです。

村田●犬童監督はどうして映画監督になろうと思ったのですか？



犬童一利監督作品「つむぐもの」(2016 年春公開)

犬童●大勢の人と一つのものをつくりたいという気持ちがずっとありました。高 3 の頃も映画関連の学校の資料集めをしていたくらいで。

村田●そのまま映画の道に？

犬童●いえ、ちょっと遠回りをしました(笑) 中央大学の商学部に進学して、新卒で USEN の子会社のインテリジェンスという会社に営業職で入社しました。その後、親会社の USEN に向向して二年間、銀座で営業していました。でも映画監督になりたいという葛藤もあって・・・そんな頃に山口監督と出会って、会社を辞めました。その頃、山口監督は SF 映画を撮っていたので、その映画のプロデューサーを経験させてもらいました。クアトロブームの TVCM もすでに何本か撮られていた後だったので、僕も明和電機の土佐さんとライブ篇の撮影をさせてもらいました。正式な現場のお手伝いは松田百香さんのライブ篇からになります。



犬童氏が最初に参加したクアトロブームの CM

村田● KISS ロボのシリーズからですか？それじゃあ、かなりクアトロブームの CM の歴史をご存知なんですね。

犬童●はい。それに現場スタッフは当時からみんな知り合いだったんで、お話はいろいろ聞いていました。最初のシリーズをムラタ自動車さんの工場で撮影した際も、福井まで車を運転して、それから雪の降る中で撮影したという話も(笑)

村田●北陸の降雪をお伝えしきれってなかったです(笑) 御苦労をおかけしました。そのあと、役者の津田寛治さんが、あのロボットを気に入ってくれて、福井テレビの企画でオリジナルドラマをここで撮影してくれたんですよ。ちょうど夏休みだったんで、私も子どもたちを連れて見学に行きました。津田さんと一緒に写真を撮ってもらったんですけど、私が短パン姿だったので最初はキョトンとされてしまいました。どこの兄ちゃんが来たのかと思われたみたいで(笑)

犬童●津田寛治さんは「つむぐもの」のキャスティング案として候補が上がっていました。なんといっても福井県出身の大御所ですから。実際に「つむぐもの」に出演して頂いた福井県出身の俳優は、天皇の料理番という TV ドラマで黒木華さんが演じた高浜俊子の父親役を演じた日野陽仁さんです。日野さんはドラマの方言指導もされている方なんです。ところで、ムラタグループとして 50 周年という節目にこういった取り組みをされているのですか？

## 50 周年の集大成とテレビ CM 制作陣のこだわり

村田●各事業を強化するために、今年はアミューズメント事業で 1 店舗、飲食事業で 2 店舗を新たに富山県で出店しました。そしてグループの活性化を促すために新規事業としてゴルフ場の経営に進出しました。

犬童●凄いですね！

村田●ありがとうございます。それからそういった新しい取り組みと平行して、従来の方針や使用されてきたものの修正を手掛けています。大きなところではロゴのデザインです。私が入社した当時、新しいブランドとしてクアトロ

ブームが石川県の鹿島にできたのですが、それから 20 年経ったので、常務とスタッフのみならず時代に合わせてロゴのデザイン選びに取り組んでいます。新しく変わっていかなくてはならないという、シンボルとしてのロゴですね。参考に他社の 50 周年事業をいろいろ見せていただくと、だいたいが原点に戻るといえるのか、創業精神を再確認するといったケースが多いようでした。当社は「信用と和」という社是に大切な要素が集約されているので、すごくありがたい言葉だと思っています。

犬童●村田社長は三代目にあたるんですか？

村田●そうです。祖父、父、私と代を継承しました。次の代にいい状態でバトンタッチするために、常務とスタッフのみならずスクラムを組んでいるんなことにトライしていきたいです。犬童さんはちょうど当社の表現などがいろいろ変わろうとしている時期に CM 撮影に関わってこられて、どんな感想をお持ちですか？

犬童●「変化させていく」という強い気持ちをもっていらっしゃると感じていました。山口ヒロキ監督も僕もいろいろな企業の PR 映像を撮らせて頂いているんですが、凄く変化に富んでいるのではないかと思います。最初は「クアトロブーム」という言葉を聞いたときに、どう進めていくべきかがイメージできなかつたんです。それから、ロボットをオリジナルでデザインするところから始めて、シリーズ展開が続いて、耳に残る音楽がつくりあげられて。今回撮影に来た丹南でも、武生と鯖江にお店があって、皆さんよくご存知ですよ。それに明和電機の土佐さんとコラボできるんで圧倒的に面白いです。

村田●土佐社長の発想は斬新ですからね。土佐社長とは、プランナーの吉田一彦氏が携わってから新しく作った最初の CM 企画で出会いました。その前のシリーズが東北新社取締役 CM ディレクターの中島信也さんが監修したものになります。もともと当社が使っていたピーマンのキャラクターを新しくしてアニメーションを作ったんですが、その声優のピーマン役を土佐さんが演じてくれました。そしてマーメイド役は元アイドル歌手で人気少女アニメ「クリーミヤマミ」の声優太田貴子さん。中島さんは、以前クアトロブームの CM で使っていたマネキンシリーズもリメイクしてくれて、その時は店長・主任・男女スタッフの計 4 役の声を一人で演じてくれました。

犬童●4 役もですか。

村田●はい、メイキング映像がクアトロブームのサイトにあります(笑) その次にプランナーの吉田氏から何か新しいものを作ろうという提案があったんです。その時期がちょうど土佐さんプロデュースの「オタマトーン」の発売時期と重なっていたので、なにかコラボレートできないかなと。それでよしもとクリエイティブエージェンシーのアイドルユニット NUT のデビュー曲「春のおめでトーン♡ありがトーン」のイメージビデオ用につくったロボットがあったので、もうちょっとカワイクしてキャラクターにできないか、という打診を吉田氏から土佐社長にかけてもらいました。それを承諾された土佐社長が福井の本社へお見えになって、CM 展開を絵コンテで説明してくれました。お正月早々、福井で工房用の場所を借りて、突貫工事で 12 体くらい作ってくれたのがロボットシリーズの始まりです。次の体操編の CM では、その NUT の 3 人の中から花乃由布莉(はなのゆうり)さんが初代 CM ガールとして出演してくれています。

犬童●さすが土佐さん、ですね。サッカー篇のロケの時は、横浜の美大のグラウンドを借りて撮影しました。ロボットのなかには学生に入ってもらって、土佐さんがダンスをその場でレッスンしてました。

村田●あのダンスは大運動会の CM でも披露しています。

## 新イメージキャラクター「ダチョウ倶楽部」

犬童●クアトロブームの CM 制作は、吉田さんがプロデューサーで山口監督と土佐さんがコンテと演出を共同で担当されています。今回のテレビ CM 企画の打合せで、最初に絵コンテを見せてもらった時に、ダチョウ倶楽部って聞いて「えっ」と思いました。芸能界でもトップクラスの方々なので、正直、大丈夫かなと感じていました。でも村田常務さんや吉田さんと太田プロの本社へ伺ったときに、ダチョウ倶楽部担当のマネージャーだけじゃなくて、太田プロの社長さんが直々に打合せに出席されたんです。撮影当日はスタジオにも来て頂いたのが驚きました。普通は来ませんから。ダチョウ倶楽部のお三方も撮影の現場で直接見て、想像していたよりも優しい方だなあと。物腰もすごく柔らかくて、現場でも揉めたりせずに、むしろギャグを言って笑わせてくれたんで、ホントに助かりました。そこがすごくよかったなあと。それにしても、どうやって起用の承諾を得たのかなあと未だに感じます。



クアトロブーム最新 CM ダチョウ倶楽部篇

にも来て頂いたのが驚きました。普通は来ませんから。ダチョウ倶楽部のお三方も撮影の現場で直接見て、想像していたよりも優しい方だなあと。物腰もすごく柔らかくて、現場でも揉めたりせずに、むしろギャグを言って笑わせてくれたんで、ホントに助かりました。そこがすごくよかったなあと。それにしても、どうやって起用の承諾を得たのかなあと未だに感じます。

村田●これまでもすごくいろんな方に支えて頂きました。そのなかで「どうやって、あの人といっしょに仕事を？」というふうに聞かれたことが何度かありました。うちの仕事は凄く大衆向けなんで、逆に違う世界のシンボリックな人に関わってもらうことで世界が広がるように思えるんです。必ず上手くいくとは限りませんが、当たって砕けろみたいなどころもあって(笑) それにダチョウ倶楽部さんは、今までもお店に何回か来てもらったことがあったんですよ。

犬童●最初、山口監督から、「ダチョウ倶楽部が起用されたんだって」って聞かされた時、大物すぎてビックリしました。映画の場合と違って、競合とかの関係もあるだろうし、契約金の想像がつかなかったです(笑)

村田●北陸エリア限定の出演ですから。

本多(株)福井新聞 PR センター) ●地元の広告代理店の営業として長年仕事してますけど、東京にある撮影スタジオの雰囲気とスタッフの人数にびっくりしました。たぶん、この先 20 年仕事しても、あんな現場に見に行けることはなかなか無いだろうと思います(笑)

村田●僕も一度撮影現場を見に行かないといけないですね。

犬童●今回、ダチョウ倶楽部さんの撮影クルーとしては、あれでもミニマムです(笑) ソフトバンクさんやアフラックさんの CM 撮影はもっと多い人数だと思いますよ。今回でもダチョウ倶楽部さん専用のメイクさん、スタイリストさん、マネージャーさんが二人、それから太田プロの社長さんもお見えになりました。三人の控室の手配も苦労しました。ホント、なかなかそんな大きなスタジオはそもそも空いてないんです。助監督を増やしたり、かなりスタッフ

も膨らんだんですけど、それでも少ない方でした。撮影後にダチョウ倶楽部さんに「おかげでスムーズにいきました」と言って頂きました。

村田●子どもだとロボットのキャラクターやダンスの動きで覚えてくれるんでいいんですけど、大人に訴求するには誰がいいかと考えたんです。目指しているイメージの方向性でも、起用できたらいいなとずっと思っていたんです。

犬童●CMの最後の「ヤー！」のところなんか、実際に声を出す口の形と、決めポーズの表情にこだわりがあって、なかなかOKがでなかったんです。山口監督がかなり編集で苦労していました。

本多●私も最初にダチョウ倶楽部さんを起用するんだって聞いて驚きました。それで実際にスタジオに入ってすげえなど。福井での広告展開としては、福井市内を走るラッピングバスに写真を使わせてもらったり、福井テレビさんのCMが印象的ですね。タイミングよく上島さんが月9のTVドラマに出演することになって、その時間帯にCMを流せたことは価値があったなと思います。周りもいろいろ気をつけてくれて「こういう面白い素材でしたらワク空けますよ」みたいな相乗効果もあったと思います。

犬童●日本にいる人なら誰でも知ってますからね。年齢層もネタの認知度も鉄板ですしね(笑)おでんの煮込み具合とか、細かい素材まで指定されました。こんにゃくはこのメーカーがいいとか。コンロも二種類用意するとか。

村田●お茶の間のTVで見ているイメージとは全然違うんでしょうね。

犬童●圧倒的なプロでしたね。百戦錬磨でやってこられたんでしょうから、アクションが一発でピタッと決まっちゃうんです。ホントに凄い。今回、ダチョウ倶楽部の三人が着ている顔出しのロボットコスチュームは特注品なんです。既製のロボットに入ってもらえれば一番よかったですけど、汗がこもったりして演技に集中できなくなるといけないので、土佐さんに相談しました。それでロボットのボディの後ろを繰り抜いたコスチュームを特別に作りました。

本多●クアトロさんでは「遊ぶる」というキーワードで、遊びの楽しさを追求していこうというスローガンを掲げられているわけですけど、映像を作る側からみて、今回のようなCMを作るときのござわりというのは？

犬童●土佐さんにしても、山口監督にしてもクリエイティブのこだわりがすごいですからね。それだけでおもしろいものができるのは間違いないですし、吉田さんと土佐さんのやりとりとか、太田プロからの「このシーンをこうしてほしい」というオーダーも入っていて、ほんとうに色々な要望がうまく調和した作品だと思います。帽子を投げるシーンもストーリーの中でこうなってないと成立しないとか、太田プロのこだわりがあって。いろんな要素が組み合わさって出来た、集大成のようなコマーシャルですね。クリエイター側から見ても、視聴者側から見ても、すごくエポックなCMになったのではないのでしょうか？

村田●聞けば聞くほど、もっと真剣にCM見ないといけないですね(笑)

犬童●ホント、北陸だけじゃもったいないです(笑)ダチョウ倶楽部は全国区ですし、土佐さんはそれこそヨーロッパや上海などで個展が開催されてワールドワイドに活躍されていますし。

村田●北陸三県以外でCMを流すときは、お店作らないと(笑)

犬童●映画の世界もそうですけど、仕事のできる方ほど他人には優しいです。映画「つむぐもの」の主演の石倉三郎さんも役者人生50周年らしいんですけど、ホントに優しい人です。最初、すごく怖いイメージがあったんですけど。

村田●周りのスタッフは年下の人ばかりでしょうからね。TVで見えていても大変ですよ。撮影で簡単に妥協するわけにもいかないでしょうし。

犬童●僕もそう思います。今回の映画「つむぐもの」では石倉さんのキャラクターを全部封印しました。最初はやりにくそうでしたけど。「監督がそう言うのなら」ということでご納得頂きました。ダチョウ倶楽部さんもそうですけど、ベテランの方はそういったところがすごいです。常に立ち居振る舞いがきちっとしています。中途半端に若くて人気が出たばかりの人とか、場合によってはエキストラのほうが態度悪いときがあります。ダチョウ倶楽部のCM撮影現場でも、ケアをどうしようかいろいろと気をつかったんですが、寺門ジモンさんはTVで見てるまんまで、気さくに「次のシーン行こう」とか言ってきて、「迷ってるんだったら、両方撮っとけば繋がるから」とか言ってくれるんですよ。

村田●本当にいい方なんです。三人の方々に特徴とか役割分担はあるんでしょうか？

犬童●そうですね、ジモンさんはすごく前向きな方で「いこうよいこうよ」というノリです。あんなことを言ってくださるタレントさんは他にいませんね(笑)上島竜平さんは、違った方法で現場を盛り上げてくださる方です。誰も見ていないところでスタッフの乳首をつねったりとか(笑)ちょいちょいノリツッコミを入れて現場を盛り上げてくれたりとか。一番びっくりしたのはリーダーの肥後克広さんですね。終始マイペースで「おはよーございます」から始まって、常に温厚というか、「次に僕は何を着ればいいのかな〜」といった感じです。本番入るとビシッとされるんですけど。CM撮りの合間の三人の様子が、三者三様で面白かったです。監督も次から次にOK出していったんで、予定より4時間早く終わっちゃいました。休憩時間を含めて、撮影時間のスケジュールを長めにとっていたんですけど、明るいうちに撮影が終わりました。僕らスタッフにとってもいい経験をさせてもらいました。東京でダチョウ倶楽部さんで何か撮ろうとすると、もっと代理店が何社も入ったり、仕事の分担もとても複雑になりますが、今回は僕達も直接ダチョウ倶楽部さんと話していろいろ撮影を進めたりできたんで、すごくいい経験になりました。CM撮影もそうですし、作り手としては映画も撮影現場をぜひ見ていただきたいです。

## 新店「クアトロブーム富山田中町」

村田●今回はスケジュールが合いませんでしたけど、富山県の富山市田中町に出店した新店をご案内できればよかったんですが。店内にある吉川壽一先生の「月を呼ぶ太陽」という作品や大塚先生の建築をぜひご覧きたかったなと思います。

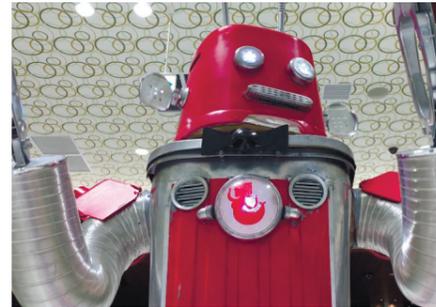
犬童●時間が合わなくて残念です。かわりに福井の店舗を拜見しましたが、あまりパチンコ屋さんという感じがしな



左: 村田展隆社長 右: 犬童一利監督

かったです(富山の写真を見ながら)最近だと東京でもシンプルなパチンコホールもありますけど、ホントにシンプルですね。

村田●今回は、道路側から少し店内が見えたらいいとか、キレイけど少し賑やかなのがいいとか、いろいろ大塚先生にお願いしました。この中央に飾ってあるのが、土佐さんの最新作で、人が入ってなくても動くロボット(笑)東京青山のレストランで、女性アイドルタレント型のロボットとの結婚式、通称「ロボ婚式」に登場したロボットです。リモコン付きで動きます。



CMにも登場する動くクアトロボ

犬童●土佐さんにロボット作ってもらっていうところが、もうホントにカッコイイですね。以前土佐さんに映画の小道具を作ってもらった時に美術監督が、これが一番高価のものになるから、取り扱いに気をつけてねって言ってました。クアトロボをよく見ると、胴体がゴミ箱、手がふとんバサミ、耳が石鹸受けとか、100均で売ってるものとかできていますよね。でも完成したのを見るとデザインとして洗練されています。



クアトロブーム富山田中町

村田●2年前に、金沢21世紀美術館で明和電機の「明和電機ナンセンスマシーンズ展」を見たときも、その世界観というか精神世界に驚きました。そういえばこの前の東京マラソンの時も、土佐さんが発明した「ランニングしながらトマトを食べるマシン」が全国ニュースに流れていました(笑)カゴメから依頼があって、研究員の方が自分でマシン背負って完走したというニュースでした。

本多●金沢21世紀美術館の「明和電機ナンセンスマシーンズ展」はムラタさんも協賛されているということで、北陸三県のマスコミにもニュースリリースしました。仕事で、というより、おもしろいから行きたいという気持ちです(笑)

村田●いろんな方々のお力をかりて、本当に感謝の気持ちで一杯です。本日はありがとうございました。

(対談収録 2015年12月8日 文責 (有)吉田一彦企画室)



富山一号店となる「伝説のすた井屋」



吉川先生の作品「月を呼ぶ太陽」



道路に面して広い窓を配置したファサード



## MURATA GROUP NEWS 2016 Vol.5

「ムラタグループ 50周年記念対談」

<http://www.murata-grp.co.jp>